



認知症の人に対する看護ケアについての研究

保健福祉学部 看護学科

講師 渡辺 陽子（わたなべ ようこ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3415号室
Tel 0848-60-1270 Fax 0848-60-1120
E-mail ywatanabe@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 老年看護学

キーワード： 認知症高齢者, 行動・心理症状, 自己決定

● 現在の研究について

○現在は、介護老人保健施設に入所されている認知症の方と関わらせていただきながら、思いに添うケア、希望を実現できるようなケアとは、どのようなケアなのかを考える研究を行っています。

(1) 周囲からみて理解が難しい行動も、認知症の方にとっては意味のある行動です。しかし、どのような意味を持つのか、周りがどのように理解し関わっていけばよいのか、という具体的な方法は、まだ十分には明らかになっておりません。私は現在、行動の意味や理由に沿った適切な看護ケアとは、どのようなケアなのか、を明らかにする研究を行っています。今までの研究の結果、認知症の方の行動には、原因疾患や重症度に応じた特徴があること、そして周囲がその特徴を踏まえて関わることで、認知症の方がケアを受け入れやすくなるということが、分かりました。

(2) 認知症が進行すると、身の回りの色々なことを、自分で決めることができなくなると思われてしまいます。しかし、周囲の手助けがあれば、自分で決められることが沢山あります。私は現在、認知症の方が、自分の思いを周りに伝えることが難しくなった場合、その思いをどのようにして周囲が知り、実現していけばよいのか、という具体的な方法を明らかにするための研究を行っています。今までの研究の結果、「行動の選択肢を提示する」

「どちらが好きかなどを尋ねる」「決めることができるまで側で待つ」などの方法が、認知症の方の「自分で決める」力を引き出すことがわかりました。援助者が、認知症の方の思いを理解する糸口をみつけ、毎日の生活の中で自己決定を支えることで、認知症の方に「周りに対する関心が広がる」「笑顔が増える」などの良い変化がみられる可能性があります。

● 今後進めていきたい研究について

私は今後、今までの研究の結果をもとに、「認知症の人の行動・心理症状に対する看護プロトコル」と、「認知症の人の自己決定を支える看護プロトコル」を作成していきたいと考えています。このプロトコルとは、周囲の人が、認知症の方の思いをどのように理解して、どのように関わっていったらよいのか、のヒントになるものです。

私は看護職として、将来的に、認知症になっても安心して、良いケアを受けながら生活することができる社会を作っていけるよう、努力していきたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

高齢者施設や、地域などで、日常生活のケアを実践している専門職(看護職・介護職)と連携し、プロトコルを用いた看護ケアを実践して行きたいと考えています。

● これまでの連携実績